古田獅子舞

【所　在　地】西之表市古田
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】平成１６年４月２０日

大正３年に当地に，大分県から伝来して以来，約90年，地区の氏神豊受神社の秋祭りである「願成就祭り」に奉納し，伝承されてきた。

２人立ちの獅子，天狗，２匹の小猿，10余名の笛吹，２人の太鼓打ちなど総勢18～19名で奏楽して舞う勇壮な獅子舞である。

獅子と天狗が激しく闘い，「ホース」という掛け声を発して気合いを入れ，緊迫感を出す。後半，獅子は弱まるが，最後に蘇り引き分けの形になる。

獅子の姿態，舞の構成，舞方，奏楽，呪術性など県内には数少ない獅子舞の中で，注目すべき点が多い。

大正初めに大分から伝えられた芸能でありながら，90年を経てすっかり土着したことは，外来芸能の受容と変化の問題を考察する上で，貴重である。

【参考】

県内で伝承されている獅子舞は少なく，以下のとおり。

① 二人立ちの獅子舞
　西之表市古田「古田獅子舞」，知名町瀬利覚「瀬利覚獅子舞」，和泊町畦布「畦布獅子舞」

② 一人立ちの獅子舞
　郡山町「大平の獅子舞」

＊ 獅子舞ではないが，芸能の中で獅子が現れるもの
　瀬戸内町諸鈍「諸鈍芝居」，瀬戸内町油井「油井の豊年祭」